

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520796

研究課題名(和文)北海道所在史料群の伝存状況からみる地域的特質に関する基礎的研究

研究課題名(英文)A foundational study of the regional characteristics as seen from the existing state of historical documents located in Hokkaido

研究代表者

谷本 晃久(TANIMOTO, Akihisa)

北海道大学・文学研究科・准教授

研究者番号：20306525

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：北海道に所在する歴史史料は、地域の歴史に応じてその性格が規定される場合が少なくない。移住者のもたらした史料は、その移住元の属性を反映している。たとえば、士族移民の伝える史料は移住元には失われた武家文書としての価値がある。松前商人が移住先にもたらした史料群は、江戸時代の商業文書としての価値がある。開墾地で集積された文書は「殖民社会」の形成過程を示す価値がある。

本研究プロジェクトでは、北海道に伝存したいくつかの未整理史料群につき、上述のような特質を意識しつつ、目録の作成を実施し、その特質を明らかにした。目録作成に際しては、院生・学生の参加を得て、史料整理手法に関する教育的効果を期した。

研究成果の概要(英文)：The character of historical documents located in Hokkaido is often defined in accordance with the history of the region. These documents brought by migrants reflect attributes of their original migration. Historical materials conveyed by warrior-class migrants to Hokkaido have value as samurai documents lost at the origin of their migration. Historical records brought to Hokkaido by migrating Matsumae merchants have value as Edo-period commercial documents. In addition, historical documents about the cultivation of land are valuable in that they demonstrate the process of forming of a "colonial society." While being aware of characteristics like those described above, this research project illuminates these features by creating a catalogue for several unorganized historical archives located in Hokkaido. With the participation of graduate and undergraduate students during the cataloguing process, efforts were made to educate students about techniques of organizing historical materials.

研究分野：日本史

科研費の分科・細目：地方史

キーワード：日本史 北海道史 史料学

1. 研究開始当初の背景

わが国における文書史料の所在状況は、それが家や寺社といった民間に豊富に伝存しているという点において、特質があると指摘されている。この特色は、近代のみならず、近世にまで遡っての集積である場合が多い点に、より際立った個性を見て取ることができるだろう。中国や朝鮮半島など東アジアの伝統社会におけるそれを振り返った場合、その個性は日本社会全体の特質としても浮かび上がってくる。近年盛んになってきている史料管理学(アーカイブズ学)の関心のひとつに、こうした史料群それ自身の構造分析があることも、故なしとはしないのである。

翻って、北海道である。北海道は、ともすれば明治以降の開拓のイメージが印象深いこともあり、“北海道は歴史が浅い”といった言説が教育現場を含め流布している状況がある。北海道に所在する史料群に焦点をあて、それ自身の構造を明らかにする作業は、本州以南の和風文化の諸地域におけるそれに比べ、甚だ遅れていると言わざるを得ないのである。

しかしながら、北海道における民間所蔵史料には、その母集団から意図的に持参された文書群と、移住先で集積された文書群とが含まれ、その各々から同時代的意義を読み取ることができるという個性が認められ、研究の価値が大きい。

以上の認識を踏まえ、代表者はこれまで蓄積してきた史料調査の実績に基づく方法論を用い2008年以来、研究分担者とともに北海道大学・藤女子大学・札幌大学の学生を主な要員とする史料調査団をボランティア形式で組織し、十勝地方豊頃町での史料調査を実践してきたが、そこでも史料群に関する同じ印象を得ている。

北海道は広く、民間地域史料の所在を明ら

かにする所在調査を実施するだけでも、困難を伴う。かつて北海道立文書館の実施した私文書所在調査で、その概要を知ることはできるものの、その目録化を含む史料群の近年のアーカイブズ学の水準を意識した構造分析については、いまだしといわざるを得ない。本研究の申請に及んだ理由は、上述の史料調査団に集う研究代表者ならびに研究分担者を中心とし、地域史料調査のノウハウを蓄積・継承し得る環境を有効に活用しつつ、当該研究を推進することで、今後の北海道地方史研究の基礎を築きたいと考えたからである。

2. 研究の目的

近年その蓄積が進みつつある現状記録方式に基づいた史料調査の方法を用い、北海道地方の地域社会(殖民社会)を構成する家や社会集団の示す歴史意識や史料管理認識の所在を明らかにする。もって、史料群の伝存状況から地域的特質を明らかにする方法を開発し、今後の北海道地方史研究の可能性をひらく基礎的研究を実施する。

これにより、北海道民間所在史料を対象とした現状記録方式を用いた史料調査の実践・成果のモデルを提示し、さらに史料構造の分析から地域社会の特質を描く可能性を提示する。

こうした作業を通じ、北海道民間所在史料群を対象に、史料管理意識や歴史認識の北海道的特質を、地域社会 殖民社会を構成する移住者等(史料保存主体)に即し、その母集団の身分や地域・生業の相違によるグラデュエーションを意識しつつ、史料構造を素材に描き出す。同時に、母集団の地域や社会に対し、前近代の史料を還元することも自覚的に目指す。

3. 研究の方法

以下の方法により研究を遂行した。

：研究代表者らが現在把握している北海道所在の史料群の特質を客観的に位置付けるため、北海道所在の民間史料群の現況を把握し、作業用のデータベースを作成する。

：データベースに基づき、典型的な史料群を選定し、フィールド調査を実施し、構造分析をおこなう史料群を画定する。

：画定した史料群を対象に、現状記録方式に基づいた調査を実施し、研究素材化を図る。

：～で得られた知見に基づき、考察を行う。

4. 研究成果

3 - ・ の作業に基づき、ふたつの調査対象を選定した。ひとつはA北海道十勝地方豊頃町二宮所在の「君尹彦氏文書」、いまひとつはB宗谷地方利尻富士町鬼脇所在の「寺嶋菓子舗文書」がそれである。いずれも研究代表者ならびに共同研究者を中軸として、研究期間中の連年夏に、インターカレッジ方式で調査団を編成して調査を実施した。

その結果、3 - としてAについては史料群全点(9502件)の現状記録・目録を完成させることができた。Bについては、物質文化資料を含む728件の現状記録・目録ならびに撮影を行うことができた。その成果は、Aについては研究代表者ならびに共同研究者を著者とした『君尹彦氏文書目録』(5 - 〔図書〕 - 1)として刊行することが叶った。Bについては、これも研究代表者ならびに共同研究者を編者とした「利尻富士町鬼脇「寺嶋菓子舗文書(カクス田中家文書)」調査概報」(5 - 〔雑誌論文〕 - ・)として公表することができた。

Aの君尹彦氏文書は、北海道近世・近代史の研究者が収集した文書群であるが、君氏の多彩な経歴(帯広・江別・札幌の小学校教諭、道立図書館北方資料室長、滝川市立図書館長、札幌市史編纂室員、北海道教育大学教授など)に応じ、その時々との関係文書が豊富に含まれている点が注目された。それに加え、昭和30年代に師事した北海道考古学の権威・河野広道に関する資料や、勤務先の小学校を母体とした地域厚生事業に関する資料、長年に亘り参加した教育研究集会の膨大な事例集、敗戦前後の北海道第一師範学校附属学校を含む実践記録は目を惹いた。

それに加え、自身の研究のために収集した記録や交わした書簡は、北海道史研究史の貴重な記録となっている。圧巻なのは、日常の暮らしや旅行先で日々入手したパンフレットやチラシ・地図などの印刷物類で、昭和30年代から平成20年代まで約半世紀のあいだ

に集められたそれは数万点に及んでいる。そのいずれもに入手年月日が記されており、資料としての価値を帯びている。細目の作成は今後の課題に残したが、いずれにせよ、同時代の風俗史料として価値が増していくであろうことは疑いない。個人収集資料群として、ひとつの典型的な調査事例を示し得たものとする。

Bの寺嶋菓子舗文書は、目標(めじるし：商標)を〔カクス〕と号する場所支配人の末裔の所蔵する文書群である。その構成はやや複雑で、近世に松前に本店を構えた蝦夷地場所請負人栖原屋の手代として代を重ね、近代に至り利尻島における栖原屋の権益を引き継ぎ浜方地主(網元)として経営を展開した〔田中家(先代の御母堂の御実家)〕に伝存した文書群を中核とし、同じく近代の礼文島で浜方地主経営を展開した又(マタイチ)松村家(先代の御母堂の実父〔御養子〕の御実家)に伝存した文書群、ならびに近代利尻島で商業経営を展開した長生堂寺嶋家に伝存した文書群で構成されている。

近代北海道において、近世以来の在方資本の蓄積の近代的展開過程については、旧松前地の旧場所請負人・廻船問屋層による水産業・流通経営の継続や銀行経営への資本参加などが知られてきたが、旧蝦夷地における権益の地域的展開に関しては必ずしも実証的・構造的に明らかにされてきているとはいえない。本史料群は、場所請負人の手代層が「場所」の権益を近代的に受け継ぎ、浜方に拠点を置く在村地主として展開した姿を、旧樺太との交渉をも含みつつ利尻島・礼文島を舞台に示す典型的な事例と位置付けることができる。こうしたタイプの史料群としては、旧場所請負人藤野家の網走における権益を引き継いだ川端家文書(網走郷土博物館所蔵)や旧ヨイチ場所請負人が請負場所に土着した林家文書(余市水産博物館等所蔵)などが知られており、本研究でなされた研究素材化の成果により、比較検討する環境が整いつつある。今後の研究を期したいと考える。

以上、本研究により得られたA・Bの文書群の研究素材化(目録化)により、3 - で示した考察は、本格的には今後の検討課題であるが、その一端は、Aについては5 - 〔図書〕に研究代表者が執筆した解題、ならびに研究分担者の川上が執筆した考古学関係資料に関する論考で果たすことができた。Bについては、5 - 〔雑誌論文〕において研究代表者ならびに研究分担者の松本が中心となって執筆した解題ならびに史料紹介により、果たすことができた。また、研究代表者・研究分担者それぞれが研究期間中になした個別の論考(5 - 〔雑誌論文〕

・ など)にも、本研究で得られた知見が応用されていることを付言する。

本研究の過程で重要な活動は、史料の研究素材化(目録作成)であり、前述したとおり、それは研究代表者・研究分担者の所属する大

学の教員・院生・学生の参加を得て構成した調査団により実施された。研究費の多くが旅費に充当されているのは、そのためである。このことを通じ、北海道の歴史研究シーンの次世代へ向け、現状記録方式をベースとした史料調査の方法論を実地に継承する場を得たことは幸いであった。

併せて、5 - 〔その他〕 . . . に記したとおり、A・Bの両調査とも、地域社会に快く受け入れていただき、結果的に地域のメディアにその様子が連年取り上げられるなど、社会的な訴求力を伴うこととなった。5 - 〔学会発表〕 に記した学術講演も、調査地域への社会貢献を同時に果たさせていただくことにもなった。史料調査を通じ、地域との連携を築くことが叶ったことは、今後当該地域の研究を継続することに資するとともに、他地域での研究体制を構築する際のモデルとしても貴重な実践例となったと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

谷本晃久、松本あづさ、第2次利尻富士町鬼脇「寺嶋菓子舗文書(カクス田中家文書)」調査概報、道歴研年報、査読無、14号、2013、54-64

谷本晃久、19世紀蝦夷地における「境域」としての可能性、歴史学研究、査読有、911号、2013、2-10

川上淳、千島通史(13): 開拓使時代の千島、根室市歴史と自然の資料館紀要、査読無、26号、2013、1-17

松本あづさ、近世後期における蝦夷地の「御用留」: ネモ口場所の事例から、藤女子大学紀要、査読無、51号、2013、125-145
谷本晃久、川端悠紀、松本あづさ、第1次利尻富士町鬼脇「寺嶋菓子舗文書(カクス田中家文書)」調査概報、道歴研年報、査読無、13号、2012、44-56

〔学会発表〕(計1件)

谷本晃久、19世紀初頭の亜庭湾岸と利尻島の社会、利尻町公民館・利尻町立博物館主催平成25年度成人教育推進事業「ふるさとカレッジ: 利尻島歴史講座」、利尻町交流促進施設どんと、2013年9月17日

〔図書〕(計1件)

谷本晃久・川上淳・松本あづさ編、北海道大学大学院文学研究科谷本研究室、君尹彦氏文書目録、2014、302頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

新聞報道(直近の3点)

『北海道新聞』宗谷・留萌版朝刊、「海峡挟み盛んに交易/19世紀のアイヌと和人/利尻で講演」、2013年10月3日

『十勝毎日新聞』、「豊頃・二宮報徳館の故君教授の資料/全目録完成へ最終調査/北大など3大学の学生、教員ら」、2013年8月30日

『北海道新聞』帯広・十勝版朝刊、「10万点の歴史資料「君尹彦文書」/目録作り総仕上げ/北大生ら作業5年目/豊頃」、2013年8月29日

6. 研究組織

(1)研究代表者

谷本 晃久 (TANIMOTO, Akihisa)
北海道大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号: 20306525

(2)研究分担者

川上 淳 (KAWAKAMI, Jun)
札幌大学・地域創成学群・教授
研究者番号: 10405623

松本 あづさ (MATSUMOTO, Azusa)
藤女子大学・文学部・講師
研究者番号: 90510107

(3)連携研究者

なし